



## デジタルコンテンツを活用した授業準備と新課程への展望

清泉女学院中学高等学校  
橘 英彰 (たちばな・ひであき)

### —使用教材—

『高等学校 新地理A』、『新詳地理B』,  
『新詳高等地図』  
『図説地理資料 世界の諸地域NOW 2019』



### 1 はじめに

筆者は2019年度、高校2年生を対象に地理A・地理Bを担当していた。とくに昨年度は指導書購入者向けのサービスで、帝国書院ウェブサイトからアクセスできる「指導資料 web サポート」を活用していた。2科目ともほぼすべての授業で「指導資料 web サポート」から教科書図版や「新詳地理B\_指導内容の整理」,「新地理A ノート\_板書例」から得られる文字情報をはりつけ、若干の加筆・修正を加えてオリジナルのスライド資料を作成し、そのまま授業資料として配布している(図1)。以前は穴埋め式のプリントを作成していたが、筆者にとってはスライド資料のほうが授業が進めやすい。なお、現在は、「指導資料 web サポート」上に教科書準拠のPowerPoint®形式の板書スライド例が公開されているので、全国の地理を教える先生方がそれぞれに工夫をされて利用されていくことであろう。

今回は、前半では、こうした教科書準拠のデータなどデジタルコンテンツを利用・作成する目的について紹介し、後半では、新学習指導要領にもとづく「地理総合」および「地理探究」における指導方法の私案を紹介する。

### 2 主体的・対話的な学びの時間を確保するためのデジタルコンテンツ活用例

筆者の勤務校では、現在、地理Bの授業は2コマ連続の90分授業(休憩を含めると合計100分)を週に2日で進めている。このように進めるとき、計180分間をどう使うか、時間配分を工夫することができるのではな

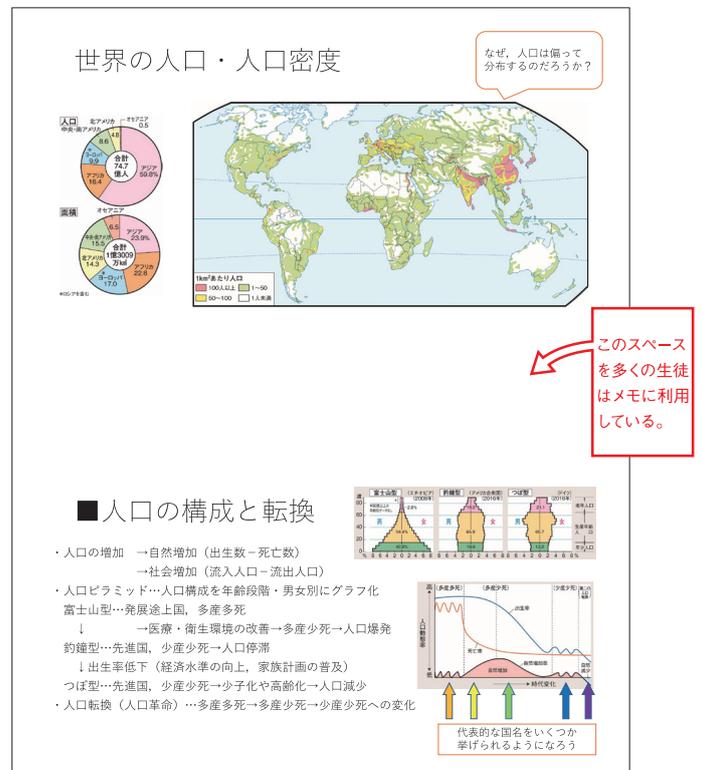


図1 「指導資料 web サポート」の図版・文字データを活用してオリジナルで作成し、配布したスライド資料の例

いかと考えた(図2)。具体的には毎回出欠を確認する時間を減らすことができる。教科書『新詳地理B』内にある「リード」を利用した発問や、「チェック」を活用した復習に取り組む時間も確保し、それだけでなく、教養を広げる内容を取り扱うことができないだろうか、と考えた。出欠確認などの時間を2時間目はほぼゼロにすることができるため、この5分×2回=10分間を活用して、かつて放送されており、DVDなどが手に入りやすかった『NHK 世界遺産100』を毎週2本ずつ見るようになった。この番組は5分間で短く世界遺産そのもの





写真1 香川県琴平町金刀比羅宮より (筆者撮影)



写真2 ウルル・カタジュタ国立公園内  
Uluru Summit Walk より (筆者撮影)

ノートに書いたことを自己評価(Cランク～Aランク)する時間(通常3分)を与える(表1)。次にチーム内で、相互評価する時間をとる(通常7分)。

こうして評価を終えた事からのうち、他のクラスメートにも注目してもらいたいことをいくつか選出し、発表させる。

表1 自己評価の基準となる表

<b>A</b> ランク	優れた評価。既習内容や他の分野の知識とつながる記述、因果関係がわかる記述であったり、地域の課題を推測することができる特徴を記述していたりする場合にあたる(これはなかなか出てこない)。
<b>B</b> ランク	期待どおりの評価または高い評価。この授業の目的、期待にこたえている。課題となっている2つの写真を比較することに意義を感じられるような特徴を記述することができた場合にあたる。一人では判断が難しいことが多いがチームで話し合わせるといくつか出てくる。
<b>C</b> ランク	一定の評価。その写真の特徴(例えば色)についての記述がなされていることがあてはまる。気がついて、書き出したこと自体を評価する。

## 4 新学習指導要領下での生徒の質問づくりを中心とする授業実践例

次は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説』より、地理総合の大項目「B 国際理解と国際協力」(1)

生活文化の多様性と国際理解、または地理探究の大項目「A 現代世界の系統地理的考察」(5)生活文化、民族・宗教や大項目「B 現代世界の地誌的考察」(2)現代世界の諸地域 における授業実践例を示す。オセアニア州やオーストラリアを扱う単元の導入や先住民の文化と理解を扱う授業時の導入(およそ15分)を想定している。

図4の写真、または類似の写真(帝国書院ウェブサイトにある写真館「世界・日本の写真」コンテンツ)や図5の地図を使う。教師からの発問ではなく、吉田新一郎 訳(2015)や鹿嶋・石黒(2018)にある「質問づくり(問い創り)」の方法を活用し、生徒自身がこの単元と授業に深くかかわるきっかけをつくる。これまで、授業の中心になるのは教師から生徒への発問であった。今後新課程の授業を計画していくうえで、より強い意味で「主体的な学び」を授業時間内に実践してもらうためには生徒自身が問題意識を示し、授業にかかわる必要がある。

ところで、ふり返ってみるとこれまでの教師の発問はこのようなものであったと思う。

- この写真に写っている物は何ですか？
- この写真を撮影したのはどんな人ですか？
- この写真はどこから撮影したのですか？
- どのような方法でこの場所に行きますか？
- この地図では、小さな空港は省略されています。この範囲の中に空港はいくつあるのでしょうか？
- このような地形が見られるのはどのような大地形が広がるところですか？
- この写真に写っている地形ができたのはどのような過程を経ていきますか？
- このまわりには人は生活しているのでしょうか？ いるとすればどのような生活をしていますか？
- このような景観はどこまで広がっているのでしょうか？ 予測するために必要な資料や統計は何ですか？
- この写真と比較してみたい場所はどこですか？(既習の内容からあげなさい)

こうした発問は、①学習指導要領の目標を達成する、②対話的な学びの時間をつくる、③深い学びをうながす、の3点について十分に有効であると感じてきたが、生徒一人ひとりがそれぞれに主体的な学びを進めるための発問と言えるかどうか、どうしても疑問に思っていた。そこで、吉田訳(2015)にならい、この写真に、「この場所に登ることは2019年10月26日から完全に禁止されました」という一文や「この写真は日本人の旅行客が撮影したものです」といった一文をつけて示し、生徒からの質問をはじめに取り上げて、調べ学習の時間を

11節 オーストラリアの生活・文化



左/ 図4  
『高等学校 新地理A』 p.140

右/ 図5  
『新詳高等地図』 p.85  
(東経約 125 ~ 140° の範囲を部分掲載)

とったり、教員からの講義を進めたりすることで、主体的に授業に取り組ませられると考えている。

また、質問づくりをする際、必ず「いつも手元において」と添えたいのが、『新詳地理B』p.22にある「おもな調査項目と調査で重要な視点」(表2)である。質問づくりの時間の中には発散思考→メタ認知思考→収束思考→優先順位づけ→ふり返りの過程があるが、地理の授業にふさわしい質問を生徒自身が選択するためには、この表に書かれている視点をふまえて質問を作成することが必要であると考えている。なお、本校は、Google for Education の導入を進めている。まだ試行錯誤の段階であるが、Google スライドを利用してクラスの在籍人数分の空ページを作成し、出席番号順にページを割りあて(本校社会科教員の実践例)、つくった質問を共有できるようにすれば、質問づくりのトレーニングとして有効ではないだろうか。

こうした時間を繰り返していく(年に数回でよいので)うちに、次のような質問が生徒自身から出てくることを期待している。

- ◆私たちが自分自身の強い文化的伝統を持っている場合、私たちは先住民族とはどのように異なるのだろうか。(Z会編集部編(2016))
- ◆ある集団が先住民とみなされるには、どれだけの世代が特定の場所に暮らす必要があるだろうか。(同上)
- ◆どの程度、地図は現実を反映しているか。地図にはどのようなメッセージが隠されているか。地図の示し方の背後にはどのような物語が存在しているか。(国際バカロレア機構編(2017))
- ◆地理学者やその他の多くの人が、人間社会の諸活動における多様性を重んじている。グローバル化は、知識を共有す

表2 『新詳地理B』 p.22 ①おもな調査項目と調査で重要な視点

おもな調査項目	身近な地域の調査で重要な視点の例
自然環境	地形 平野、台地、盆地、山地/大きな山や山地の位置/土地の高さ・低さ/海岸線/自然災害・防災など 気候 気温/降水量・積雪量/特徴的な風/季節による違い/自然災害・防災など
歴史的背景	歴史的背景 地域の産業や文化の歴史/人々の移住・開拓/おもな道路・支路/歴史上の人物/他国とのかわりの歴史など
他地域との結びつき	交通 おもな道路、鉄道、高速道路の位置や変化/人や物の動きなど 通信 インターネットなどの通信を使った取り組みなど
環境問題・環境保全	環境問題 水質汚濁/大気汚染/ごみ問題/産業廃棄物の問題など 環境保全 市町村や住民ボランティアの取り組みなど
産業	農業 おもな農産物/田や畑の分布/おもな出荷先/農業産出額の変化/農家の工夫など 工業 おもな工業製品/工場や工業団地の分布/出荷先や原料の仕入れ先/工業出荷額の変化など その他 観光産業/林業/漁業/商業など
人口や村落・都市	人口 人口分布/人口の変化/年齢別人口の割合など 村落・都市 市街地の広がりや変化/ニュータウン/通勤・通学先など
生活文化	生活文化 生活のようす/祭り・伝統行事の継承/伝統料理/伝統的な家屋/伝統的工芸品/都市化や近代化による変化と街なみ保存の取り組みなど

る機会を増大させるものであるか、それとも多様性を消滅させるものであるか。(同上)

## 5 おわりに

筆者は昨夏、校内での教職員向け研修プログラムにおいて、教員と生徒の win-win の関係づくりが大切であるという認識を新たにした。これから始まる地理総合、地理探究では、プリントの穴埋め方式でもスライド資料を使った方式でも、いずれの授業も教員と生徒がたがいに授業に主体的に参加し、生徒にとっても教員にとっても授業後に、今日の授業は得るものが多かったといえるものであるように、多様な方法で授業を計画するべきであろう。帝国書院のウェブサイトでは、冒頭で紹介したデジタルコンテンツをはじめ、写真や最新の統計資料、授業案などさまざまな情報が公開されているので、私たちの授業づくりを支援してくれる取り組みとして、ぜひ一度活用してみることをお勧めする。

### 〈参考文献〉

- ・鹿嶋真弓,石黒康夫(2018):『問いを創る授業 子どものつぶやきから始める主体的で深い学び』図書文化社,p.168
- ・木下礼子(2016):『いきいき授業実践 幸せな人口ピラミッド』、『地理・地図資料』2016年度3学期号,帝国書院
- ・吉田新一郎 訳(2015),Dan Rothstein,Luz Santana 原著:『たった一つを変えるだけ クラスも教師も自立する「質問づくり」』新評論,p.289
- ・Z会編集部 編(2016),Wendy Heydom,Susan Jesudason 原著,小澤大心,久保敦,小林万純,仲田毅 監訳:『TOK(知の理論)を解説する~教科を超えた知識の探究~』Z会,p.229
- ・国際バカロレア機構 編(2017):『地理「指導の手引き」(2019年 第1回試験)』,https://www.ibo.org/globalassets/publications/geography-guide-2018-jp.pdf,p.93

### 〈写真〉

- ・アマナイメーجز